

| | | |
|-----|---------------|----------------|
| 科目名 | 鉄筋コンクリート工学(1) | 科目コード 51300 |
|-----|---------------|----------------|

| | | | | | |
|--------|------------------------------|------|-----------|------------------------|----------------------------------|
| 学科名・学年 | 環境都市工学科 4 学年 (プログラム 1 学年) | 担当教官 | 佐藤國雄 (環境) | | |
| 単位数 | 1 単位・必修 | 開講期間 | 前期 | 時間数 | 30 時間 |
| | | | | 内訳 <small>(時間)</small> | 講義(26), 演習(0) 実験(0), その他(4) |
| 教科書 | 国府勝郎著：入門鉄筋コンクリート工学、技報堂 | | | | |
| 補助教材 | プリント | | | | |
| 参考書 | | | | | |

| | |
|---|-------|
| A 科目の概要 | |
| <p>鉄筋コンクリート理論の基礎を学び、鉄筋コンクリート構造物の設計法へと発展する。設計法は、許容応力度設計法、終局強度設計法、そして限界状態設計法へと進歩発展してきた。土木学会「コンクリート標準示方書」では、限界状態設計法が標準として示されているが、実構造物、例えば道路橋の設計では許容応力度設計法と終局強度設計法が用いられている。そこで、この授業では、許容応力度設計法を中心に、材用の性質と設計用値、曲げ応力度、せん断応力度の算定方法を学ぶ。</p> | |
| B 到達目標 | |
| <p>曲げ応力度の算定方法を理解する。 せん断応力度、付着応力度の算定方法を理解する。 偏心軸方向力を受ける部材の応力度の算定方法を理解する。</p> | |
| C 長岡高専の学習・教育目標との対応 | (D) |
| D 履修上の注意 | |
| 建設材料と力学の基礎（構造力学）および力学演習が基礎知識として必要である。 | |
| E 評価方法 | |
| <p>曲げ応力度の算定方法を理解したことを筆記試験によって確認し、評価する。(40%) せん断応力度、付着応力度の算定方法を理解したことを筆記試験によって確認し、評価する。(30%) 偏心軸方向力を受ける部材の応力度の算定方法を理解したことを筆記試験によって確認し、評価する。(30%) 中間試験(40%)前期末試験(60%)で理解の程度を評価する。60 点以上を合格とする。</p> | |

